

書評

京都大学
特任教授
川北 英隆

『安心ミライへの 「資産形成」 ガイドブックQ&A』

- 編著者：三井住友トラスト・資産のミライ研究所
- 発行所：(一社)金融財政事情研究会
- A5判・208ページ/1400円（税別）



2019年6月、2000万円問題が大きな話題となった。金融庁の審議会が「(退職後の老後資金としての)不足額の総額は、単純計算で1300万~2000万円になる」との資料を公表したことによる。

では、実際のところ、老後資金としてどの程度の金額が必要なのか。また、その金額はどのようにすれば確保できるのか。

老後資金が2000万円不足するとは、平均的な姿でしかない。それも特定の条件を想定して計算したものにすぎない。当然ながら、現実には個人差が極めて大きい。職業はもちろん、家族構成が収入と支出に大きく影響する。これ以外にも、住居問題、病気や事故、両親からの援助や遺産など、多くのことを考慮しなければならない。

さらに、収入と支出だけではなく、老後に備えた資産の形成方法が大きな課題となる。その方法の

選択は年齢によっても異なってくる。結果に相当の差異が生じるには論をまたない。

このように、老後資金と資産形成と一口に言っても、非常に多くのことを想定して行動しなければならない。そのため、何から、どのように始めればいいのか、難しく感じられる。とはいえ、老後問題は自分自身のことである。だから、適切なアドバイスがあればありがたいと思うだろう。

本書はまさにこのアドバイスのために編さんされている。老後に備えるための難問を簡明に整理し、それへの対応を例示してくれている。そこで、本書での参考となる切り口をいくつか挙げておく。

第一に、年齢別の平均的な収入と支出や、結婚や住宅購入などの人生における重要なイベントに必要な金額が示されている。収入や支出に個人差が大きいことは既に

述べたとおりだが、自分自身の現在の状況と比較すれば、老後までの状態をある程度明確にイメージできるだろう。

第二に、年齢別や家族構成別に、資産形成の目的、手段などの指針が述べられている。それと同時に、住宅ローンや保険の利用の方法も示されている。普通の個人にとって、住宅ローンや保険を利用する機会が限定されているだけに、一般的な選択や利用を示してもらるのは実用的である。

第三に、退職が近づき、さらに老後に入った段階での、資産に関する記述が詳しいことである。例えば、年金の受給であり、両親の相続問題である。その中で、自らも老後の生活に突入していく。その生活資金のことは当然として、自分自身の相続や遺言への備えも始めなければならない。

本書は信託銀行の研究所による編著だけに、退職に備えた年金制度と、退職後の資産の活用に関する解説にも力点が置かれている。これが他書にない特色である。読者にとっても、「こういう商品やサービスがある」といった知識が増えるメリットがある。

長い人生において、資産的な裏付けの確保は重要であり、本書はその資産面での手引書である。もちろん、200ページばかりの分量では、全てを書き尽くせない。とはいえ、本書を糸口とすれば、多くの関連情報をうまく整理でき、老後に備えた資産形成に役立つことだろう。

本誌収録の読者アンケート(86ページ)にお答えをいただいた方の中から、抽選で5名様に上記書籍を贈呈致します。ご希望の方はプレゼント希望欄に○印をご記入の上、ご応募ください。なお、応募期日は2021年2月5日(必着)とし、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。